

命めぐる技術 どう付き合う

出生前診断・iPS細胞

新しい出生前診断やiPS細胞(人工多能性幹細胞)など「いのち」を巡る画期的な技術に注目が集まっている。急速に進む技術革新は、倫理や安全性という制約を乗り越えようにもみえる。何を考えるべきなのか。

新しい出生前診断は、血液検査によって、子どもがダウン症かどうかを「高い確率」で診断できる。ただ「命の選別」という問題が残ると批判が根強い。

立岩真也立命館大教授(社会学)は「こんな子どもが生まれてきてほしいという親の願望があるのは普通だ。でも、それが完全に満たされるべきだと認められているわけではない。根底には、誰も他人のことを決めてはならないという規範がある」と指摘する。立岩さんが注目するのは「子どもは授かりもの」

新しい出生前診断

妊婦の血液に含まれる胎児のDNAを解析し、子どもがダウン症かどうかを判定する。おなかに針を刺して羊水を調べる従来の方法に比べ、安全性が高い。国内でも近々、臨床研究という形で始まる。

iPS細胞

皮膚や髪の毛などの細胞に特定の遺伝子を導入し、体の色々な部分の細胞に変化する能力をもたせたもの。例えば皮膚の細胞から神経細胞や血液細胞などが作り出せるため、再生医療や新薬開発への応用が期待される。受精卵から作られるES細胞と同様に「万能性」を持つ。

他者の「あり方」に介入する危うさ／次々生まれる問い



平川秀幸氏



ハーバーマス氏



立岩真也氏

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

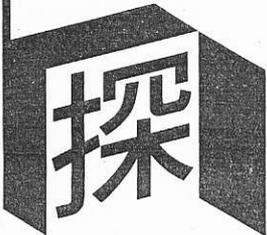
今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。

今年ノーベル医学生理学賞の授賞につながった山中伸弥京都大教授の功績はiPS細胞の作製だ。生命の萌芽である受精卵を潰して作られるES細胞(胚性幹細胞)に比べて倫理的なハードルが低いとされ、ES細胞研究には反対するローマ法王庁も研究を歓迎する。体の色々な組織に変化できる「万能性」はES細胞と同じだ。



(高久潤)